

登録コード	A4B01200	開講年度	2026				
授業科目	農業経済学					担当教員	若林 剛志 他
英文授業名	Food Production Economics						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限	対象学生	
講義室	農学部 1 5 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2. 【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。					⇔	農業を取り巻く社会経済に関して、主に経済学的な視点から、経済発展に伴う食資源と価格や所得の変化に関する専門的な知識や研究に適用する能力を修得している。
	【2025年度以降カリキュラム対象】3. 【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。					⇔	農業を取り巻く社会経済に関して、主に経済学的な視点から、経済発展に伴う食資源と価格や所得の変化に関する専門的な知識や研究に適用する能力を修得している。
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	私たちは、食料が不足すれば直ちに栄養失調や飢餓の危険にさらされる一方で、それほどたくさんの量を食べられるわけでもありません。食料は、不足でもなく過剰でもないという適正量の範囲が狭い品目です。したがって、持続的な食料の増産は、やがて過剰問題を引き起こします。このように「無いとすぐ困るけれど、たくさんはいらない」のが食料であるため、こうした食料の特徴は、私たちの生活にさまざま影響を及ぼしています。この講義では、食料に関わる身近な話題から出発して、授業計画に示す内容について学修します。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンス、数値でみる日本農業 第2回 経済発展と農業 第3回 食料の需要と供給 (1) 第4回 食料の需要と供給 (2) 第5回 農業生産と土地 第6回 農業の経営組織 第7回 農産物の市場組織 第8回 農産物貿易と農業保護政策 (1) 第9回 農産物貿易と農業保護政策 (2) 第10回 世界の人口と食料 第11回 食生活の成熟とフードシステム 第12回 農業の近代化 第13回 資源・環境と農業 第14回 日本の農業と食料 第15回 日本の農業と食料、試験対策（※授業アンケートへの記入時間を設ける） 第16回 試験						
(6)自主学習の指針	新聞やテレビを含む情報媒体を通じて、農業に関連する記事や特集に注意を払うようにして下さい。						
(7)成績評価の基準	授業の内容に関する基礎問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい問題が解ければ「かなり上にある」、難しい問題が解ければ「卓越している」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	1. 日本と世界の食料事情、農業交渉、農業政策、食品流通などに関する文献を読んで予習する。 2. 講義内容をふまえて、日本や世界が抱える食料・農業問題について復習する。						
(9)テストやレポートの予定	随時レポートの提出を求めます。また、最後に総括的な試験を行います。						
(10)成績評価の方法	レポート50%、試験50% 上記の成績評価の基準に照らして、合格水準に達していれば60点とし、その達成度合に応じて以下のように評価します。[不可 (0-59) , 可 (60-69) , 良 (70-79) , 優 (80-89) , 秀 (90-100)] 2/3以上の出席を要します。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	講義終了時に対応します。それ以外についても随時受け付けます。						
(12)履修上の注意	関連する科目も履修するようにして下さい。						
【教科書】	農業経済学〔第6版〕荏開津典生、鈴木宣弘（岩波書店）						
【参考書】	必要に応じて、講義時に提示します。						